

『物語ること、生きること』



祖母の昔話、初めて書いた物語、海外でのフィールドワーク…。作家の上橋菜穂子さんが幼少期から作家になるまでの数々のエピソードを語った一冊です。弱虫な自分に活を入れ、まずは一歩踏み出す事を繰り返してきた上橋さんの言葉にきっと勇気をもらえるはず。

上橋 菜穂子/著 講談社

『希望の牧場』



東日本大震災の後、福島第一原子力発電所の警戒区域内に取り残された「希望の牧場・ふくしま」。汚染されてしまった牛や生き物をただ生かし続けるために踏ん張り続けている人々がいます。社会の様々な事柄に目を向け、その未来を皆で考えていけたらと思える一冊です。

森 絵都/作 吉田 尚令/絵 岩崎書店

『高校生からのリーダーシップ入門』



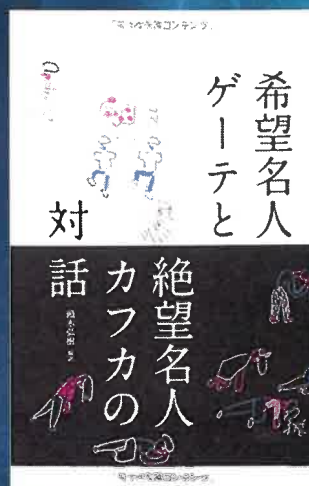
人望があり、カリスマ性を備えた一握りの人がその他大勢を引っ張る従来のリーダー像。しかし著者は、これからの社会においてはそこに参加する全員がそれぞれの役割において働きかけ、人を動かすリーダーシップが重要だと言います。未来を生きる人達に読んでいただきたい一冊です。

日向野 幹也/著 筑摩書房

高井戸YA新聞2019年春号(28号)

# 「未来」

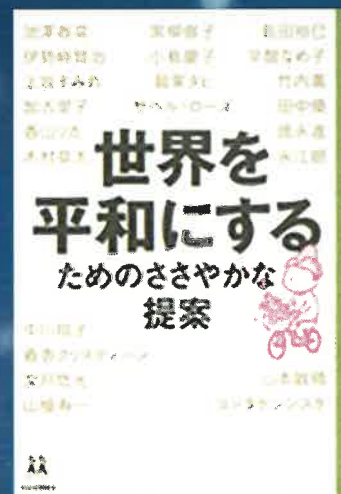
『希望名人ゲーテと絶望名人カフカの対話』



カフカの言葉は悲惨なまでに暗い。正相反なゲーテとの絶妙な対比により、暗さが更にきわだちる。笑いがこみあげてくる。希望と絶望は表裏一体。ネガティブな人間にも明日は来る。未来に絶望した時に読んでほしい一冊。救われます。

フランツ カフカ/著 飛鳥新社  
ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ/著

『世界を平和にするためのささやかな提案』



この地球上の常にどこかで起こっている紛争や戦争。争いのない平和な世界を達成するための考え方のヒントが詰まっています。「世界から戦争をなくすことができるかもしれない」と本気で信じている人間にしか世界は変えられません。未来を生きる十代の人達に是非手に取ってほしい一冊です。

池澤 春菜 他/著 河出書房新社

『十一月の扉』



素敵な洋館「十一月荘」で二か月暮らすことになった14歳の爽子。そこで出会った個性的な人達との日々から広がる世界を物語りにしてつづるようになる。そしていつしか爽子は未来への扉を自らの手で開き始めていた。扉の向こうの未来の明るさに幸せを感じる一冊です。

高樓 方子/著 福音館書店